

日本作業科学研究会ニュースー作ら, さくらー第4号



発行年月日 2008年7月15日

発行者 日本作業科学研究会

ウェブサイト <http://www.jssso.jp/>

編集責任者 吉川ひろみ

第12回作業科学セミナー(JOSS)ご案内

第12回JOSS*が, 2008年11月22日(土), 23日(日)に, 東京の文京学院大学(文京区本郷)にて開催されます。札幌で始まり西日本で盛り上がっていたJOSSが, やっと関東に上陸です。今回のセミナーのテーマは, 「作業を考える第一歩」です。

このテーマに, 作業科学を勉強している人も, 勉強したいと思っている人も一堂に会し, 作業科学と作業療法の共通点である作業を学び深めてもらいたいという思いをこめています。

作業科学を学ぶ方と作業科学の研究をする方は, 過去もしくは現在, 「作業とは何だろう?」「作業を用いると効果があると確信しているけれども, 説明する言葉を持っていない」といった悩みや, 「作業科学関連の勉強会に出てもまだまだ分からない」と思いを持った, または持っていることと思います。作業科学セミナーで共に学び, 少しでもそのような疑問や悩みを解消しましょう。私自身, セミナー参加者と話をすることで, どんなに作業科学を教してもらったか分かりません。作業科学を大切と考える仲間との語り合いを通して, 明日への力をつけましょう。

プログラムは, 作業科学とは聞いたことがあるけれども良く分からないという方から, 学んでいる最中の方, そして作業科学者としての道を歩んでいる方にも満足いただけるような内容を準備中です。

教育講演に齋藤さわ子氏(茨城県立医療大学), 特別講演にJosephsson Staffan氏(カロ

リンスカ研究所), 佐藤剛講演に中村春基氏(リハビリテーション西播磨病院, 日本作業療法士協会副会長)をお招きすることが決まっております。いずれも, 国内外で活躍中の大変魅力的な方々であることは既にご存知のことと思います。

日本作業科学研究会のホームページ(HP) <http://www.jssso.jp/index.htm> から, JOSSのHP <http://www.geocities.jp/osseminar12/> を見ることができます。プログラム, 演題募集, 参加申込について情報がありますのでご活用ください。既にセミナーと懇親会への申込をされている方もございます。ありがとうございます。今後も情報は更新されますので, ぜひ「お気に入り」にJOSSのHPを入れて, 時々作業科学セミナーのページにもいらしてください。

JOSSの会員の皆様には, ぜひ身近にいらっしゃる方々をお誘いの上ぜひ御参加下さい。皆様と共に作業を考える第一歩を踏み出すことを実行委員一堂楽しみにしております。

(西野歩, 社会医学技術学院)

***** 略語 *****

JOSS: Japanese Occupational Science Seminar
(日本の作業科学セミナー)

JOS: Journal of Occupational Science
(作業科学専門学術誌の名称)

ISOS: International Society of Occupational Science
(国際作業科学協会)

ENOTHE: European Network of Occupational Therapy in Higher Education
(欧州OT高等教育ネットワーク)

ECOTROS: European Cooperation in Occupational Therapy Research and Occupational Science
(欧州OT研究・OS協力体)

長崎作業療法学会ワークショップ報告

2008年6月22日(日)、「作業療法・作業をみつめなおす：作業科学の視点」のテーマで行われた今回の作業科学研究会ワークショップは、第42回日本作業療法学会の最終日、メイン会場の長崎ブリックホールで開催されました。学会最終日の、しかも、閉会式直前の時間帯でしたが、用意された150席はほぼ満席となり、10年余り前に日本に導かれた作業科学への興味が高まりつつあることを嬉しく感じました。



1時間半のワークショップの前半は、「作業を追求する学問：作業科学の誕生」(小田原悦子)、「作業・作業的存在としての人を見つめる」(近藤知子)、「世界の作業療法と作業科学：作業科学の世界」(浅羽エリック)、「日本の作業療法と作業科学」(宮前珠子)の講義を行いました。後半はグループに分かれ、「最近うつ状態で仕事にいけなくなった」という設定のクライアント役から、作業に関わる話を引き出し、そこから作業療法アプローチを考えるグループワークを実施しました。

今回初めて作業科学に触れ「これが自分の求めていたものだ」と感じた人、以前学ぼうと試

み「挫折したが、また学びたいと思った」人、何度もセミナー等に足を運び「だんだん解ってきた」と感じた人、「面白かった」「楽しかった」と応える人など、作業科学やワークショップへの多くの肯定的なコメントが得られました。帰りの便を案じながらの参加者も多かった様です。参加者の皆様に心から御礼申し上げます。また、作業科学研究会理事の心強い支えには感謝の言葉もありません。今後も、このようなワークショップを継続して開催できればと考えています。(近藤知子、帝京科学大学)

参加者感想

今まで「作業科学」という言葉はよく耳にしていたのですが、知識はかなり断片的で詳しい事についてはほとんど知りませんでした。今回のワークショップでは、作業科学が生まれた背景や歴史、そして考え方が分りやすく説明され、また実際に参加者同士がクライアント役とOT役に分れてワークを行ったことで、より具体的に作業科学の視点・切り口が理解できました。

私は今老健に勤めており、発症後数ヶ月の急性期から、入所して何年にもなる慢性期の方達

まで、様々な利用者に対してリハビリを行っています。どうしても疾患や移動・ADLなどの動作面に視点が行きがちで、PTと似通った業務になってしまいOTの専門性に悩んだり、在宅復帰できず、そして老化とともに介助量が増えていく人達を前に、リハの行き詰まりを感じモヤモヤしていました。しかし、今回参加したことで、作業的存在として利用者を捉え、作業を通して理解するという発想の転換で、今まで見過ごしていた面が新たに見えてきて、「これ

が足りなかったのか！！」ととても腑に落ち、少し霧が晴れたような気がします。作業療法士としてもっと「作業」を大切にしなきゃいけないと実感しました。

今回をきっかけに、作業科学に興味湧き、

もっと学んでみたいと思いました。そして、私はこの施設の中で OT として利用者と共にどんな「作業」を展開していけるかな？と、少しワクワクした気持ちにもなっています。

(清水麻衣子, 介護老健施設 徳洲苑なえぼ)

臨床に出て1年と数ヶ月になりますが「作業療法士とは何か?」「理学療法士とは何が異なるのか?」という疑問が日々強まっていました。ワークショップの抄録を読み、その答え、もしくはヒントとなるものが得られると感じ、参加しました。今回、最も感銘を受けたことは「患者様(対象者)を作業的立場、視点から評価すること」という考え方でした。『患者様のQOLを含め、その人自身を成り立たせているものを、作業という視点でみること』を行うことが『作業療法士のidentity』なのだと感じま

した。その考え(視点)を基に、患者様を評価し問題点を明らかにし、アプローチを考え、実施していくことが作業療法なのだと理解しました。臨床経験や知識が浅いために、評価の仕方や問題点の抽出方法、アプローチの方法を習得することばかりに目を向け、努力していましたが、本来の作業療法士の役割を果たすためには、評価や問題点の抽出に至るまでの基礎となる考え方を習得する必要があるのだと感じました。

(勝田茜, 医療法人盈進会 岸和田盈進会病院)



平成19年度 第2回理事会報告

【日時】2009年6月20日(金)20~23時

【場所】のぶ(長崎市岩川町17-9)

【出席者】宮前, 港, 吉川, 浅羽, 西野, ボンジェ, 村井, 坂上(記録)

【議題】

1. 機関誌(担当:村井, 西野)

第2号は、投稿論文、昨年度佐藤記念講演内容、招待講演内容、ワークショップの記事、重要論文紹介とする。印刷は9月末~10月。500部18万円とする。投稿論文規定文字数を約16,000字に増やす。

2. ホームページ(担当:浅羽)

専用サーバーへ移行し、会員専用サイトの開設済み。会員専用サイトは、パスワード付きでJOS*サマリー、研究会ニュース、機関紙が掲載されている。本年1月からIT管理者を雇用(年10万円で新年度も契約更新)。会員全員に同じパスワードとIDを配布。毎年、パスワードを変え、会費を支払った人に配布。

英語サイト作成中。内容更新前に理事にメールで確認する。

現在まで5,000台のパソコンからアクセスされ、2月にサーバーを移行してから、オンラインによる申込み85名。毎月平均3,700回(一人当たり7回)アクセスがあり活用されている。

3. 研究会ニュース(担当:吉川)

第4号を7月発行予定。

4. 第12回OSセミナー(担当:西野)

学会でちらし配布、HP準備、内容決定中。広報は、東京都士会・埼玉県士会のニュース発送時に折り込みちらし封入依頼(無料)。東京の各養成校に50枚送付予定。後援依頼先候補は、日本作業療法士協会、東京都作業療法士会、埼玉県作業療法士会、文京区。広告依頼候補は、社会医学技術学院、文教学院大学、三輪書店、医歯薬、協同医書。広告はA4サイズ1枚で2万円。聖隷大、藍野大、浅羽研に依頼文を送付。

演題は「作業と臨床」、「作業科学研究」の2

本立てで募集。演題は量よりも質を重視し，十分な発表時間を確保する。OSセミナーに不適切な演題は不採択とする。演題査読は，セミナー担当者と理事から3名で行う。2名以上の同意で採択する。作業科学研究の発表を増やす努力をする。OT以外の発表者を考慮する。

参加費を見直す。赤字は研究会が補填。海外講師の交通費，謝金，記念講演の講師選定基準については次回理事会にて検討。

5. 第13回OSセミナー

大会長を村井真由美，会場候補地は博多。

6. 役員選挙

理事数を規定最大10名を目指す。9月22日公示。立候補の締め切り10月14日。総会11月23日の昼食時1時間の中で実施予定。選挙管理委員3名と，うち1名に委員長を依頼。

7. Denise Reid氏（トロント大学）訪問

2009年4月から日本訪問し，県立広島大学，

吉備国際大学，岡南病院，藍野大学，聖隷クリストファー大学，札幌医科大学を訪問予定。日程，行事を計画する。

【報告】

1. 会員数

222名（20年6月19日現在。ただし，新会員・既会員の会費未納者計56名を含む）

2. JOS*のコンタクトパーソン

小田原悦子氏に依頼，承諾済み。

3. ISOS*からの依頼

代表のアリソン氏からISOSが関わる2つのワークショップ（5月，9月）のための情報提供。設立総会，設立パーティ時の写真を送付。

4. ENOTHE*の件

9月Berlinでの会議案内。

5. 次回理事会予定

2008年11月23日16:30から。新旧理事出席予定。（坂上真理，札幌医科大学）

事務局からのお知らせ

日本作業科学研究会（JSSO）が設立され，1年半が過ぎました。この間，登録会員数も200名を越え，またJSSOのハード面も急速に整いました。今年1月には研究会のHPが専用サーバーへ移行し，その中で念願だった会員専用サイトも開設されております。皆様はもうご覧になりましたか？会員専用サイトを開くためには専用IDとパスワードが必要になりますが，会員の皆様の特典となるよう，パスワードを毎年更新し，年会費を納入された方に配布することになっております。本研究会の平成20年度が始まる10月以降には新しいパスワードに変わりますので，年会費（2,000円）の納入はどうぞ早目にお済ませください。現在は，海外への情報発信ができるように，英語サイトの準備も着々と進んでおります。国内外の作業科学者との情報交換の場としてHPへの期待は大きく，今後は活用方法の検討も重要な議題になると思われます。会員の皆様からの要望やお

知恵もお待ちしております。

HP以外の活動では，昨年12月にはJSSOの機関誌「作業科学研究」が創刊されました。機関誌は年1回発行する予定で，第2号は第12回OSセミナー開催時に配布できるように準備しておりますので楽しみにお待ちください。また，投稿規定も見直され，量的研究，質的研究ともに投稿しやすくなりました。第2号への投稿は締め切られましたが，作業科学の研究をされている方は是非第3号に向けてご投稿ください。

さて，今年の最大級のイベントとして，11月に行われる作業科学セミナーと，それに合わせて開催される総会，理事の選挙があります。理事の選挙については，9月以降に選挙管理委員から公示がある予定です。本研究会からのお知らせは，主に電子メールを使って行っています。アドレスに変更があった場合は，事務局（secretariat@jssso.jp）までお知らせください。

国際作業科学協会 (ISOS)の経過報告

作ら, さくら - 第3号に ISOS*の発展について簡単な紹介を述べました。今回は ISOS の活動について簡単な報告をしたいと思います。

ISOS にはいくつかの目標がありますが, そのひとつとして, すべての教育レベルにおける作業科学または作業中心のカリキュラムを進展させ提供するための, 国際的な協力を促進していくことが挙げられます。この目標にそって, 平成 20 年 9 月 25 日にヨーロッパの ENOTHE*学会で ISOS は ECOTROS*と共同で1日ワークショップを行う予定です。ワークショップは, 研究と教育における作業科学の発展 (Developing occupational science in research and education: Developments, discussions, and potential) をテーマとして行われます。午前中に Alison Wicks 会長が特別講演をし, 午後は8つのワークショップを小グループに分けて進めて行く予定です。これらの活動を通してヨーロッパでの作業療法の教育プログラムにおける作業中心のカリキュラムの発展, そのストラテジーや資源の共有, そして参加者間のネットワークの発展の支援を行います。

ISOS は現在, ウェブ上にて毎月開かれる理事会を通じ, 学会でのネットワーク作り以外に

もいくつかのトピックスに取り組んでいます。まず, ISOS の新しいウェブサイトのリニューアルが行われ, 次年度に向けてのさらなるウェブサイトの発展に向けて継続的に活動中です。作業科学に関心を持つ方の数がこの数年増加したため, ありがたいことに ISOS の会員数も世界各国から増えています。各国の連携を取りやすいように, ISOS 理事以外に数名の代表者にも関わっています。今までのところ, 以下の国々からの方々が代表者となっています: オーストラリア (Valerie Wright St Clare), カナダ (Christine Guptill), チリ (Ana Valdebenito), ヨーロッパ ECOTROS (Fenna van Nes), 日本-JSSO (Mari Sakaue), 南アフリカ (Lana Van Niekerk), 台湾 (Jin-Ling Lo), そしてアメリカ-SSO:USA (Pollie Price) です。

日本または世界で, 臨床家や研究者, 方針立案者たちがグループで様々なおもしろい取り組みを行っています。ぜひこの機会に, 同じ興味を持った世界中の仲間とつながり, 学ぶ機会を作ってみませんか? まだ作成中ですが, 詳しくは ISOS のウェブサイトをぜひご覧ください (<http://isos.nfshost.com/>)。

(浅羽エリック, 財団法人浅羽医学研究所
附属岡南病院・カロリンスカ研究所)

書評

「作業」って何だろう 作業科学入門 (吉川ひろみ著, 医歯薬出版)

本書は日本語で書かれており, 実に平易なわかりやすい文章で, すんなりと内容が理解できるため, 作業科学を真剣に学ぶときはもちろんだが, リラックスしたときの読み物としてもおもしろい (現に 2008 年 6 月 20 日から行われた長崎での全国作業療法学会で, ある作業療法士が, 移動の新幹線の中で読んできたと言って見せてくれたのが偶然にも本書だった)。

ところで私事だが, 数年前から市民活動の中でも作業療法士として活動している。ボランテ

ィアの養成や福祉教育の中で生活を形作る作業について話す機会が多い。人々は意識することなく様々な作業を自分で選択して自分なりの生活, 人生を形づくって



いる。しかし、だれも日々の作業と自分の人生とがつながっているなどと思っていなかった！

人が生きていく中で日々の作業を具体的に見返すことが、今までの人生を振り返らせたり、今の人生がどんなものかを理解させたり、どんな作業を選択することでこれからの人生をどう生きていくかを決めていく。本書では、それをする「道しるべ」である作業の様々な面について、丁寧に説明されている。

作業科学専門学術誌JOS最新号から

装丁が新しくなった JOS15 巻1号が届きました。最初の論文は 2007 年南カリフォルニア大学で開催された作業科学シンポジウムでのウィルマ・ウエスト講演「作業の概念化と分類における新たな方向性」(Hans Jonsson, スウェーデン) です。続いてライフスタイルバランスに関する論文が 2 本 (モデルの提案, Matuska & Christiansen, 多発硬化症女性による経験, Matuska & Erickson, アメリカ) 掲載されています。次は「精神障害者の日常作業の意味」(Leufstadius 他, スウェーデン), 「日常生活における作業と参加: オーストリアの難民キャンプでの女性たちの経験」(Steindl 他, オーストリア), 「作業実存 (presence) と作業従事 (engagement) と健康 (well-being) の関連についての探索」(Reid, カナダ) と続きます。Occupational Presence の理論を展開している Denise Reidさんは 2009 年春に来日予定です。最後の論文は「遺産 (legacy): 行為 (actions) と人造物 (artifacts) を通しての自己の作業伝達 (transmission)」(Hunter, アメリカ) です。「作業プロフィール (Occupational Profile)」と題したコラムには、修士論文の一部として行った 3 人の石工へのインタビューが載っています。

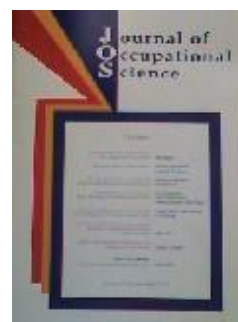
昨年 12 月にアリソン・ウィックスさんが来日された時に、作業プロフィールのインタビュ

2007 年の第 11 回作業科学セミナーの招待講演でアリソン・ウィックス氏が、アン・ウイルクック氏の作業科学の論文を初めて読んだときの体験を「蚊にかまれた」と表現されていた。本書を読んで、作業について蚊にかまれる体験をするのが、作業療法士のみならず、人が生きることにかかわる全ての人へと、増えていくことを願っている。

(春原るみ, 長野医療技術専門学校)

ーをすることによって、作業の視点が養われると言っていました。作業に注目しながら人の話を聞くことで、作業科学を学べるということです。アリソンさんには県立広島大学と聖隷クリストファー大学で特別講義をしていただきました。受講した学生の一人が、「アリソンさんは作業科学に感染した (蚊にかまれた) と言っていたが、自分はもうすでに感染していたことに気付いた」と言いました。宮前会長が昨年のセミナーの時に「作業科学をメインストリームへ」と書いて貼っておきましょうと言ったことを思い出します。

JOS は、年 3 号発行されていて個人契約では AUD \$85.00, 組織契約では AUD \$265.00 です。注文は JOS ホームページ



<<http://www.jos.edu.au/>>から。

編集者からのお知らせ

お知らせや雑感など、このニュースに掲載したい記事がある会員は、吉川ひろみ yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp まで、随時送りください。ニュース発行は年 2 回の予定です。